

報道関係各位

同時配布 京都大学記者クラブ

## 京薬大・京都橘大 事例検討を通して在宅チーム医療への貢献を実践的に学ぶ 4つの医療系学科による合同多職種連携教育（IPE）を11/8開催

◇日 時：2024年11月8日（金）12：45～17：30（12：30受付開始）  
◇会場：京都薬科大学 躬行館2階

京都薬科大学（京都市山科区、学長：赤路健一）と京都橘大学（京都市山科区、学長：日比野英子）は2024年11月8日（金）、多様化する患者対応のためにチーム医療を推進できる人材育成の一環として、4つの医療系学科合同の多職種連携教育（IPE：Interprofessional Education）を開催します。

この合同多職種連携教育（IPE）は、京都薬科大学5年次生、京都橘大学看護学部看護学科、健康科学部理学療法学科および作業療法学科の4年次生を対象に実施する選択制のプログラムです。それぞれ異なる医療教育を受けている両大学の学生たちが垣根を越えて学び、話し合うことを通して、各職種の強みや弱みを知り、チーム医療への貢献を理解することを目的に2016年度から開催、今回で8回目を迎えます。

当日のプログラムでは、両大学の教員により設定された1つのシナリオ事例を用いて、各学科の学生たちが専門知識を駆使して最適な医療についてグループディスカッションを行います。はじめに同じ学科の学生同士で編成されたグループで討議と発表を行い、次に学科混成により編成されたグループでの討議と発表を行うことで、チーム医療の有効性と共通の目標（アウトカム）を設定する難しさについてより深く考える機会としています。

昨年より、例年題材として使用してきたシナリオ事例について見直しを行い、患者の自宅環境の説明や間取り等の画像情報を新たに追加しました。これにより、学生はさらに具体的に今後の対応や支援方針について考えることができ、より現実に近い想定でこれまで以上に広く深い議論を展開することが期待できます。

共に山科区で医療系学部を持つ両大学は、IPEを核に教育研究協力に関する包括協定を2019年3月に締結しました。本取り組みは、実際の医療現場において、チームの中で個々の専門性を生かし、患者のための治療・ケアの提案ができる実質的な力を身につけるモデルケースとなりうるものです。今後もプログラムの充実と継続を図り、より専門性と実践能力の高い人材の育成を目指していきます。

### 記

<日 時> 2024年11月8日（金）12：45～17：30（12：30受付開始）  
<会 場> 京都薬科大学 躬行館3階（住所：京都市山科区御陵中内町5）  
JR[山科]駅・地下鉄東西線[山科]駅・京阪[山科]駅より徒歩8分  
<参加予定者> 京都薬科大学 薬学部 薬学科 5年次生 12人  
京都橘大学 看護学部 看護学科 4年次生 12人  
健康科学部 理学療法学科 4年次生 16人  
作業療法学科 4年次生 12人 計52人

以上

## <プログラムの詳細>

### ■スケジュール

日時:2024年11月8日(金)12:45~17:30/場所:京都薬科大学

時間	内容
12:45~12:55	趣旨説明および事前アンケート回収
12:55~13:00	移動(5分)
13:00~13:50	<b>第Ⅰ部:同学科でのグループディスカッション</b> 薬学科・看護学科・理学療法学科・作業療法学科の学生が同じ学科ごとのグループで討論
13:50~14:00	移動・休憩
14:00~14:20	<b>各グループの発表</b>
14:20~14:30	移動・休憩
14:30~16:00	<b>第Ⅱ部:学科混成のグループディスカッション</b> 薬学科・看護学科・理学療法学科・作業療法学科の学生が混在したグループで討論
16:00~16:10	移動・休憩
16:10~17:00	<b>各グループの発表・全体討論・質疑応答</b>
17:00~17:30	両大学教員からの講評および事後アンケート記入

### ■当日のシナリオ事例(概要)

76歳の男性が、畑で倒れているところを発見され救急搬送された。MRI検査で脳梗塞と診断され、脳神経外科に緊急入院。頭部右方偏位、左片麻痺。

血栓を取り除く治療後、運動麻痺および認知機能低下が残存。約2カ月後にリハビリ科へ転科、食事はほぼ自立、排泄動作では介助が必要である。当初から本人の帰宅願望が強く、入院生活のストレスが増強。約6カ月後、在宅医療を見据えた地域連携カンファレンスを開催し、退院した。内服薬の自己管理が困難なため、退院後は長女が服薬管理を行う予定だが、介護サービス介入の検討も必要になる可能性がある。

上記の状況において、在宅医療において薬剤師、看護師、理学療法士、作業療法士のそれぞれの立場から、また、在宅チーム医療としてどのような支援や介入が考えられるか、検討を行う。

### ■各プログラム会場

京都薬科大学 躬行館

集合場所 : Q22 講義室

全体会場 : Q22 講義室

討論会場 : Q251・Q252・Q261・Q262・Q263 セミナー室、T21 講義室

**※本件は、当日のご取材も承っております。ご希望の際は京都薬科大学までご連絡ください。**

本件に関するお問い合わせ先

京都薬科大学 企画・広報課

担当:山口・仲達

TEL: 075-595-4691 FAX: 075-595-4750

kikaku@mb.kyoto-phu.ac.jp